

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 7 日作成)

委員会名	鋼構造座屈小委員会	主 査 名：上谷宏二
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鋼構造の座屈に関連する研究及び技術を性能設計の観点から調査し、部材座屈と全体座屈の連成を総合的に考慮できる座屈解析法とそれに基づく設計法を検討する。さらに、鋼構造の座屈性能評価に関する文献を調査してデータベースを作成するとともに、骨組座屈の統合的評価が必要な事例を収集する。本年度は、拡大小委員会を開催して、広く委員外から情報を収集して成果を取りまとめる。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：上谷宏二(京都大学)、幹事：大崎 純(京都大学) 小河利行(東京工業大学)、小野徹郎(名古屋工業大学)、川口 淳(三重大学)、河野昭彦(九州大学)、木村 衛(新都市ハウジング協会)、竹内 徹(東京工業大学)、多田元英(大阪大学)、谷口与史也(大阪市立大学)、辻岡静雄(福井工業大学)、堀 昭夫(テクニカルスルー)、緑川光正(建築研究所)、山田大彦(東北大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<u>骨組座屈の統合的評価 WG</u> ： 骨組座屈の統合的評価が必要な事例を収集し、将来の座屈設計法の方角について検討する。 <u>鋼構造座屈性能設計 WG</u> ： 「座屈部材塑性繰返し変形性能」と「座屈性能評価式」に関する成果を調査し、データベースを作成する。	
2004 年度予算	500,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会：4月24日(34人) 鋼構造座屈性能設計 WG：4月14日(5人)、6月2日(6人)、7月14日(4人)、11月5日(5人)、1月14日(6人)、3月11日(7人) 骨組座屈の統合的評価 WG： 7つき17日(9人)、12月17日(9人)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 成果の具体的内容： 拡大小委員会を開催して、以下の内容について議論するとともに、委員外からの情報を収集した。 ・「座屈部材塑性繰返し変形性能」及び「座屈性能評価式」について文献を調査してデータベースを作成した。それに基づいて、鋼構造の座屈に関わる「性能」を評価するために必要な項目を抽出した。 ・骨組座屈の統合的評価が必要な事例を収集するとともに、座屈解析法の現状を調査し、将来の座屈設計法のありかたについて検討した。 成果の学術的・技術的・社会的価値： 鋼構造部材や接合部の座屈に関してこれまでに得られていた学術的成果を収集し、性能設計と統合的評価のために利用することにより、鋼構造骨組の構造設計技術の発展と、骨組の安全性向上のために貢献することができる。 ホームページ等での公開： なし 委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画をほぼ達成することができた。
その他評価すべき事項	とくになし。